【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成18年7月27日(2006.7.27)

【公開番号】特開2002-126234(P2002-126234A)
【公開日】平成14年5月8日(2002.5.8)
【出願番号】特願2000-320129(P2000-320129)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｆ　7/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｆ　7/02　３２０

【手続補正書】
【提出日】平成18年6月12日(2006.6.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
複数種類の識別情報を可変表示可能な可変表示装置を有し、所定条件の成立に基づき、前記可変表示装置で識別情報の可変表示を開始させた後、該可変表示の停止時の表示結果が予め定められた特定表示態様となった場合に、所定の遊技価値を遊技者に付与可能な特別遊技状態が発生する遊技機において、
前記可変表示装置は、複数種類の前記識別情報をそれぞれ可変表示可能な所定数の表示領域を備え、前記可変表示の結果、前記所定数の表示領域とは別に新たに副表示領域を導出する副表示導出制御手段と、該副表示領域に表示する識別情報に、前記特定表示態様で停止しなかった表示態様から特定表示態様となるか否かの予告情報を前記識別情報に付加して可変表示を行う表示制御手段を備え、
前記副表示領域に表示された予告情報は、前記特定表示態様となる可能性が高くなる予告情報を含むことを特徴とする遊技機。
【請求項２】
複数種類の識別情報を可変表示可能な可変表示装置を有し、所定条件の成立に基づき、前記可変表示装置で識別情報の可変表示を開始させた後、該可変表示の停止時の表示結果が予め定められた特定表示態様となった場合に、所定の遊技価値を遊技者に付与可能な特別遊技状態が発生すると共に、前記可変表示の途中過程で、前記特定表示態様になる可能性が生じた場合にリーチ表示態様が出現する遊技機において、
前記可変表示装置は、前記遊技機の主制御部からの表示状態演出データを基に、前記リーチ表示態様を経た後に特定表示態様で停止しなかった場合に、前記所定数の表示領域とは別に新たに副表示領域を導出する副表示導出制御手段と、該副表示領域に表示する識別情報に、前記特定表示態様で停止しなかった表示態様から特定表示態様となるか否かの予告情報を前記識別情報に付加して可変表示を行う表示制御手段を備え、
前記副表示領域に表示された予告情報は、前記特定表示態様となる可能性が高くなる予告情報を含むことを特徴とする遊技機。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】

【０００７】
【課題を解決するための手段】
前述した目的を達成するための本発明の要旨とするところは、次の各項の発明に存する。
［１］複数種類の識別情報を可変表示可能な可変表示装置（３１０）を有し、所定条件の成立に基づき、前記可変表示装置（３１０）で識別情報の可変表示を開始させた後、該可変表示の停止時の表示結果が予め定められた特定表示態様となった場合に、所定の遊技価値を遊技者に付与可能な特別遊技状態が発生する遊技機において、
前記可変表示装置（３１０）は、複数種類の前記識別情報をそれぞれ可変表示可能な所定数の表示領域（３１１）を備え、前記可変表示の結果、前記所定数の表示領域（３１１）とは別に新たに副表示領域（３１２）を導出する副表示導出制御手段と、該副表示領域（３１２）に表示する識別情報に、前記特定表示態様で停止しなかった表示態様から特定表示態様となるか否かの予告情報を前記識別情報に付加して可変表示を行う表示制御手段を備え、
前記副表示領域（３１２）に表示された予告情報は、前記特定表示態様となる可能性が高くなる予告情報を含むことを特徴とする遊技機。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
［２］複数種類の識別情報を可変表示可能な可変表示装置（３１０）を有し、所定条件の成立に基づき、前記可変表示装置（３１０）で識別情報の可変表示を開始させた後、該可変表示の停止時の表示結果が予め定められた特定表示態様となった場合に、所定の遊技価値を遊技者に付与可能な特別遊技状態が発生すると共に、前記可変表示の途中過程で、前記特定表示態様になる可能性が生じた場合にリーチ表示態様が出現する遊技機において、
前記可変表示装置（３１０）は、前記遊技機の主制御部（３００）からの表示状態演出データを基に、前記リーチ表示態様を経た後に特定表示態様で停止しなかった場合に、前記所定数の表示領域（３１１）とは別に新たに副表示領域（３１２）を導出する副表示導出制御手段と、該副表示領域（３１２）に表示する識別情報に、前記特定表示態様で停止しなかった表示態様から特定表示態様となるか否かの予告情報を前記識別情報に付加して可変表示を行う表示制御手段を備え、
前記副表示領域（３１２）に表示された予告情報は、前記特定表示態様となる可能性が高くなる予告情報を含むことを特徴とする遊技機。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３１
【補正方法】変更
【補正の内容】

【００３１】
特定表示態様は、各表示領域３１１と副表示領域３１２の双方の表示結果を所定態様で組み合わせることで、初めて形成可能な表示態様となっている。詳しくは、前記リーチ表示態様に組み合わされて特定表示態様を形成する当たり識別情報は、残りの右表示領域３１１に停止表示された図柄と、副表示領域３１２に停止表示された図柄とを四則計算（予告情報として表示され、所定態様で組み合わせる）することで形成される。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３２】
具体的には、図１３（ｂ）に示す例では、左、中表示領域３１１に停止した図柄「３」が一致してリーチ表示態様となった後、残りの右表示領域３１１に停止表示された図柄「２」と、副表示領域３１２に停止表示された図柄「＋３」（この＋が予告情報である、以下同じ）とを四則計算すると、外れ識別情報「５」となるので外れ表示態様が確定する。一方、図１３（ｃ）の例では、右表示領域３１１に停止表示された図柄「６」と、副表示領域３１２に停止表示された図柄「－３」（この－が予告情報である、以下同じ）とを四則計算すると、当たり識別情報「３」となり、特別表示態様が確定することになる。
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４０】
次に遊技機本体１の制御に用いられる各種制御基板について説明する。
図５及び図６は、遊技機本体１の制御に用いられる各種制御基板及びそれに関連する構成要素を示すブロック図である。図５、図６には、制御基板として、主基板（遊技制御基板ともいう）１００、払出制御基板２００、表示状態演出に関する主制御部であり、副表示領域を導出する副表示導出制御手段でもある表示制御基板３００、ランプ制御基板４００、音声制御基板５００、発射制御基板６００、電源基板７００が示されている。
【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５４】
表示制御基板３００へは、時系列に左図柄データ、中図柄データ、右図柄データ等の表示状態演出データ（遊技状態演出データ）が出力される。すなわち、ＣＰＵ１０２から８ビット認識コード、表示状態演出８ビットデータが、データバスを通じてラッチ回路１１２ｂに順次出力されると、これらと同調するように表示制御基板３００への割り込み信号、各ストローブ信号の２ビット制御信号がラッチ回路１１２ｅへ出力される。
【手続補正１０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５６】
表示状態演出データに同調して、８ビットパラレルランプ表示出力データと制御信号が、ランプ制御表示基板４００にラッチ回路１１２ｃを通じて出力される。また、表示状態

演出データに同調して、８ビットパラレル音源出力データと制御信号が音声制御基板５００にラッチ回路１１２ｄを通じて出力される。すなわち、各データがデータバスに出力されるタイミングに同調してアドレスデコード回路からチップセレクト信号が出力され、ラッチ回路１１２ｃ、１１２ｄにデータバス上のデータがラッチされて、ランプ制御表示基板４００等に出力される。

【手続補正１１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８０】

次に、図８に示す表示状態演出に関する主制御部であり、副表示領域を導出する副表示導出制御手段である表示制御基板３００について説明する。

表示制御基板３００は、主に遊技盤２上に設置された特別図柄表示装置（可変表示装置）３１０の制御を行う。表示制御基板３００は、所定の画像処理手順（プログラム）や画像制御データを記憶している表示器制御ＲＯＭ３０２と、所定の画像処理手順を読み取り実行する表示器制御ＣＰＵ３０１を有している。

【手続補正１２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１３】

図１３（ｂ），（ｃ）に示すように、左と中央の表示領域３１１に停止した図柄が一致するとリーチ表示態様に該当するが、このリーチ表示態様が出現した時点で、各表示領域３１１の下方に副表示領域３１２が新たに追加表示される。この副表示領域３１２では、予告情報である「＋」または「－」等の演算記号が付いた数字、あるいは予告情報である割り算を示す「１／２」等の分数が、識別情報として可変表示（スクロール表示）される副可変表示が実行される。

【手続補正１３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１６】

具体的には、図１３（ｃ）に示す例では、左、中表示領域３１１に図柄「３」が揃ったリーチ表示態様の後、残りの右表示領域３１１に停止表示された図柄「６」と、副表示領域３１２に停止表示された図柄「－３」とを四則計算すると「６－３＝３」となり、当たり識別情報「３」となって特別表示態様が確定する。

【手続補正１４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１８】

一方、図１３（ｂ）に示す例では、左、中表示領域３１１に図柄「３」が揃ったリーチ表示態様の後、残りの右表示領域３１１に停止表示された図柄「２」と、副表示領域３１２に停止表示された図柄「＋３」とを四則計算すると「２＋３＝５」となり、外れ識別情報「５」となるので外れ表示態様が確定する。

【手続補正１５】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１９】
かかる外れ表示態様においても、図１４（ｄ）～（ｅ）に示すように、最後に副表示領域３１２が画面上から消えて、右の表示領域３１１には計算結果としての外れ識別情報のみが再度停止表示されるようにしてもよい。なお、左と中央の表示領域３１１に停止した図柄が最初から揃わず、リーチ表示態様が形成されなかった場合も外れ表示態様に確定する。さらにまた、図１５に示すように、副表示領域３１２に予告情報である「＋」、「－」を特定表示態様となる可能性が高くなる予告情報として「＋」、「－」２種類にとれる「±」としての予告情報を付加した識別情報を表示してから（図１５（ｂ））、「＋」、「－」何れか一の予告情報を付加した識別情報を確定するように表示してもよい（図１５（ｃ），（ｄ））。
【手続補正１６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１２６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１２６】
【発明の効果】
本発明に係る遊技機によれば、特別遊技状態を発生させ得る特定表示態様は、前記各表示領域と副表示領域に特定表示態様となる可能性が高くなる予告情報を含めた識別情報を表示することによって、遊技者は、副表示領域に表示された予告情報を見て有利な状態か不利な状態かを判断することができるとともに、また予告情報が少なくとも２種類の情報を持つことによって更に有利な状態となる可能性が高まる。このように各表示領域における表示結果から、いわゆる当たり外れが確定せず、予告情報を付加することによって副表示領域における表示結果に期待するところが大きくなりこの期待感を長くかつ十分に喚起することができる。